

日本テスト学会 第23回大会
プログラム

2025年9月24日（水）～ 9月25日（木）

東京大学



日本テスト学会 第 23 回大会

主催／日本テスト学会 第 23 回大会実行委員会

協賛

日本テスト学会第 23 回大会を開催するにあたり，以下の企業・団体の皆様より，多大なご支援を賜りました。心より感謝申し上げます。

- ・ 株式会社教育測定研究所
- ・ 株式会社図書文化社
- ・ 株式会社ハピラル・テストソリューションズ
- ・ 株式会社ベネッセコーポレーション
ベネッセ教育総合研究所
- ・ 株式会社リクルートマネジメントソリューションズ
- ・ 公益財団法人日本人事試験研究センター
- ・ プロメトリック株式会社

<50 音順>

日本テスト学会第 23 回大会実行委員長
東京大学大学院教育学研究科
岡田 謙介

ごあいさつ

日本テスト学会第 23 回大会を、2025 年 9 月 24 日（水）・25 日（木）に東京大学本郷キャンパスにて開催いたします。新型コロナウイルス感染症の影響により、2020 年の第 18 回大会は開催中止となり、2021 年から昨年までの大会はすべてオンライン開催となっております。したがって、皆様と対面でお目にかかることができますのは、2019 年に名古屋大学東山キャンパスで開催された第 17 回大会以来、実に 6 年ぶりとなります。本年 9 月、東京大学本郷キャンパスにおきまして、再び皆様と一堂に会して研究の議論を行い、対面で交流の場を持てますことを楽しみにしております。

本大会では、「何を、誰が、どう測るのか」をテーマに掲げました。日本テスト学会は教育や社会におけるテスト（測定・評価）の科学研究とその成果の普及に取り組んでおり、大会では測定・評価に関する最新の研究成果や実践事例が共有され、研究者や実務者が一堂に会して活発な議論が交わされています。本大会をテストの目的や内容、テストを実施する主体や手法など、測定・評価をめぐる根源的な問いについて改めて考え、議論を深める機会にできればと考えております。

また、軸となる一般研究発表に加え、24 日と 25 日に 2 件の大会実行委員会企画シンポジウムを、25 日に研究委員会企画シンポジウムを、いずれも公開の形で開催いたします。さらに、対面開催の魅力の一つでもある懇親会も開催いたします。大会はもちろん懇親会も、準会員や学生などキャリア初期の方々にとっても参加しやすい場にしたいと考え、準備を進めております。懇親のひとときを通じて、所属や年代、専門分野の枠を超えたつながりが生まれることを期待しております。

最後になりますが、実行委員一同、久々の対面開催となる本大会が皆様にとって有意義で実り多いものとなりますよう準備を進めて参りました。多くの皆様にご発表、ご参加をいただけますことをありがたく思っております。東京大学本郷キャンパスにて皆様とお会いし、議論できますことを心待ちにしております。

日本テスト学会第 23 回大会実行委員長
東京大学大学院教育学研究科
岡田 謙介

大会日程

<1日目 / 2025年9月24日(水)>

受付開始：9:50

	国際学術総合研究棟 3 番大教室	赤門総合研究棟 A200 教室
10:20～ 12:00	一般研究発表 1	一般研究発表 2
12:00～ 13:15	昼休み	
13:15～ 13:45	総会	
14:00～ 16:00	大会企画シンポジウム 1 『『よい項目』とは何か？—高度化・ 複雑化する測定対象への挑戦—』	
16:25～ 18:05	一般研究発表 3	一般研究発表 4
18:30～ 20:30	懇親会（カポ・ペリカーノ）	

※理事会を 12:10～13:00 に教育学部棟2階 第2会議室で開催します
(詳細は該当の皆様へ別途ご連絡差し上げます)。

<2日目 / 2025年9月25日(木)>

受付開始：9:40

	国際学術総合研究棟 3 番大教室	赤門総合研究棟 A200 教室
10:00～ 12:00	研究委員会企画シンポジウム 「学校教育の中の『テスト』」	
12:00～ 13:15	昼休み	
13:15～ 15:15	大会企画シンポジウム 2 「認知診断モデルを実践で活用する」	
15:40～ 17:00	一般研究発表 5	一般研究発表 6

※編集出版委員会を 12:00～13:15 に教育学部棟2階 第1会議室で開催します
(詳細は該当の皆様へ別途ご連絡差し上げます)。

大会へ参加される皆様へ

受付	受付開始時刻は大会1日目〔9月24日（水）〕9時50分、2日目〔9月25日（木）〕9時40分です。
総会	大会1日目〔9月24日（水）〕13時15分より、国際学術総合研究棟3番大教室で行います。日本テスト学会会員の方はご参加ください。
懇親会	大会1日目〔9月24日（水）〕18時30分より、本郷キャンパス内のカポ・ペリカーノにて行います。
クローク	大会1日目・2日目ともに、赤門総合研究棟2階208室にてクロークを設置いたします。ご利用時間は1日目〔9月24日（水）〕が10時00分から18時15分まで、2日目〔9月25日（木）〕が9時40分から17時15分までです。 利用をご希望の方は受付でお声がけください。 なお貴重品のお預かりはいたしかねますので、各自で管理してください。
喫煙場所	東京大学本郷キャンパス内は指定箇所を除き、 全面禁煙 です。 喫煙可能な場所についてはスタッフまでお尋ねください。
昼食	学内食堂等は営業しております。また学内にコンビニエンスストア（ローソン）があります。キャンパス付近の本郷通り沿いにも各種飲食店がございます。
休憩室	大会1日目・2日目ともに、教育学部棟1階158室を開放しています。
緊急連絡先	発表者の欠席等、急を要する連絡が必要な場合は、大会問い合わせ先メールアドレス（ jart2025headquarters-group@g.ecc.u-tokyo.ac.jp ）までお知らせください。
無線 LAN	eduroam に参加している大学・研究機関等に所属している方は、東京大学のキャンパス内で eduroam を利用できます。所属機関でアカウントを取得してご利用ください。
発表賞推薦	大会発表賞の推薦を承ります。 推薦は以下のフォーム（Google form）からお願いいたします。 https://forms.gle/HdohxsdwrUriRrPz5 （推薦受付期間：9月24日（水）～26日（金））

一般研究発表：発表者の皆様へ

- 発表時間** 原則として、1 件の発表につき発表時間 15 分・質疑応答 4 分・入れ替え 1 分とします。
- PC 機器** 会場では液晶プロジェクターおよび大型スクリーンが利用できます。発表用の PC は、原則としてご自身のものをご持参ください。プロジェクターとの接続には HDMI を用います。発表前にプロジェクターとの接続および動作をあらかじめ確認しておいてください。ご事情によりご自身の PC を持参することが難しい場合は実行委員会メールアドレス（jart2025headquarters-group@g.ecc.u-tokyo.ac.jp）までご連絡ください。

座長の先生方へ

- 進行管理** 予定時間を超過しないように、時間管理をお願いいたします。
- スタッフ** 当日は各発表会場にスタッフを用意しています。何かありましたらスタッフまでお申し付けください。
- 緊急連絡先** 大会期間中、急を要する連絡が必要な場合は、実行委員会メールアドレス（jart2025headquarters-group@g.ecc.u-tokyo.ac.jp）までお知らせください。

交通機関についての詳しいご案内は
こちらをご覧ください：

https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/campus-guide/map01_02.html

アクセスマップ（東京大学 本郷地区全体図）



最寄りの門から 大会受付・会場等へ

本郷通り沿いの 伊藤国際学術研究センター門

(東京メトロ 丸ノ内線「本郷三丁目」駅より徒歩8分,
都営地下鉄 大江戸線「本郷三丁目」駅より徒歩7分,
東京メトロ 南北線「東大前」駅より徒歩10分)



凡例

↑ 建物入口

②

大会受付
3 番大教室,
A200教室



右の写真にある
「赤門総合研究棟」の入口を入り直進してください。
(奥で「国際学術総合研究棟」と繋がっています。
詳細は建物内の案内板をご覧ください。)

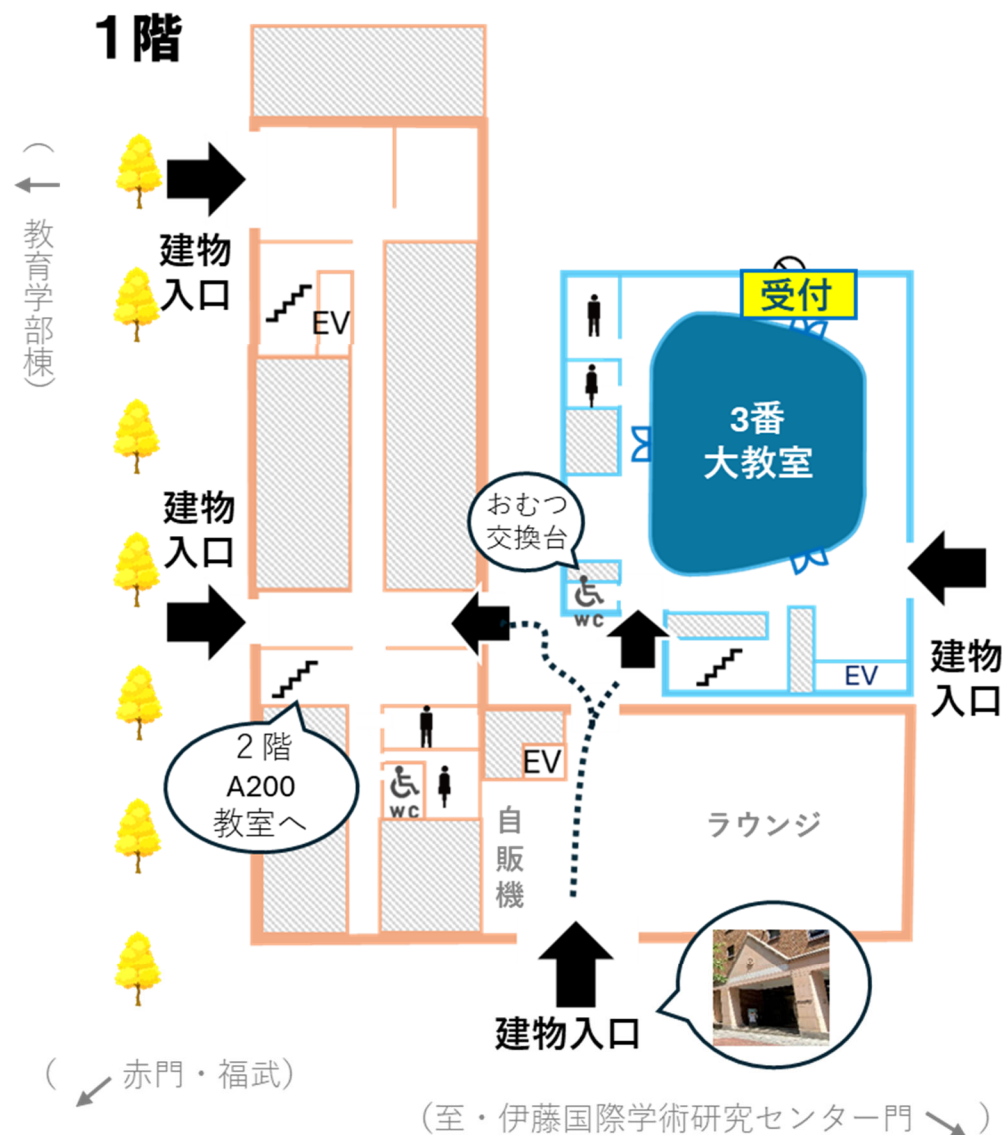
①

伊藤国際学術
研究センター門

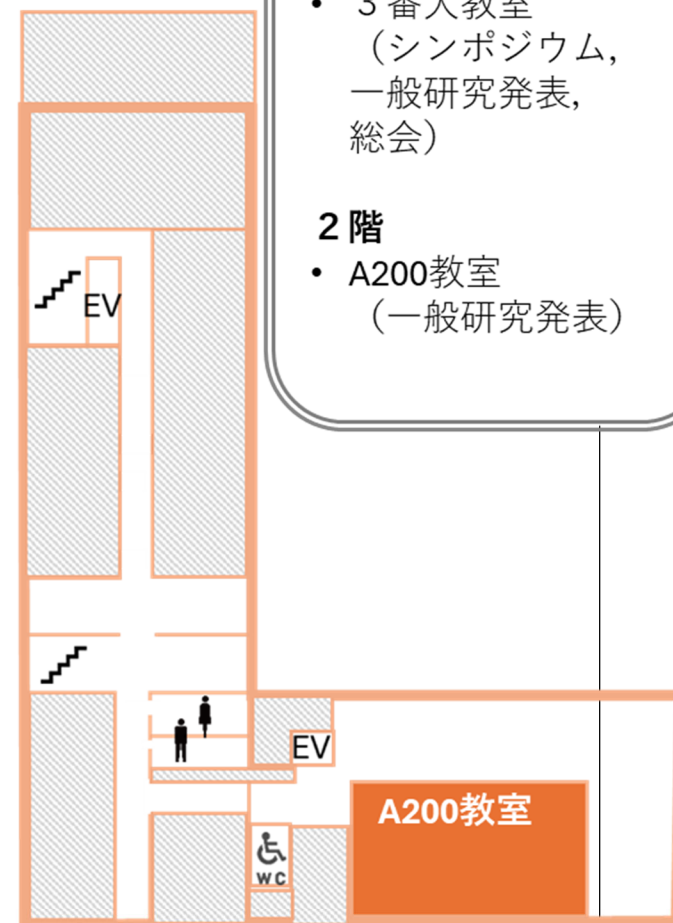
会場最寄りの門。
左前方に進んで
ください。



国際学術総合研究棟・赤門総合研究棟



2階



1階

- 大会受付
- 3番大教室
(シンポジウム,
一般研究発表,
総会)

2階

- A200教室
(一般研究発表)

大会企画シンポジウム1

「『よい項目』とは何か？—高度化・複雑化する測定対象への挑戦—」

テストは複数の項目から成り、その良し悪しは、つまるところ各項目が「測りたいことを実際に測れているか」に依存する。近年のテストにおける測定・評価の対象は、高次思考や創造性といった高度な認知機能、多様な心理・非認知特性、さらには人ではなく LLM などの機械のパフォーマンスまで多岐にわたっている。すなわち、測定対象の複雑化・多様化が顕著である。これに伴い、テストの各項目が本当に狙いどおりの構成概念を捉えられているか、本来の意図とは無関係な要因やバイアスを取り込んでいないかという問いが、従来にも増して大きな課題として浮かび上がっている。そこで本シンポジウムでは、「『よい項目』とは何か？」をテーマとし、高度化・複雑化する測定対象に対する研究に取り組んでいる、専門分野を異にする4名の研究者から、近年の成果や各分野の理論的枠組み、方法などについて話題提供をいただく。教育測定・心理測定・自然言語理解をはじめとする各分野の知見を結集し、今後のテスト開発と利活用における質の向上に資することを目指す。

企画／岡田 謙介（東京大学）

司会／岡田 謙介（東京大学）

趣旨説明／岡田 謙介（東京大学）

話題提供者／荒井 清佳（大学入試センター）、寺尾 尚大（大学入試センター）、
稲増 一憲（東京大学）、菅原 朔（国立情報学研究所）

1. 「言語運用力」試験の開発と検証の過程18
荒井 清佳（大学入試センター）
2. 誤答選択枝の質を高める
一人のふり見てわがふり直す、多枝選択式項目の営為—18
寺尾 尚大（大学入試センター）
3. 社会を測る際の問題19
稲増 一憲（東京大学）
4. 大規模言語モデルの評価における説明性19
菅原 朔（国立情報学研究所）

研究委員会企画シンポジウム
「学校教育の中のテスト」

口頭試問、紙筆式テスト、CBT、e-テストなど、時代や場面により形態はいくつか変化するが、テストは学校教育の中で広く用いられている。それは、テストに関する知見の蓄積や技術の開発により、妥当で精度の高い測定が可能であること、大量な受検者の情報を効率的に収集できること、客観的で公平な評価をもたらすこと、結果の利活用がしやすいことなどの特長を、テストが備えていることによる。しかしそれは、競争や点数を取るだけの学習を煽り本来の学びを阻害する、画一的・形式的な評価を助長する、安易で不適切な結果の利用をもたらすなどの弊害にも繋がるものであり、しばしばテストは悪として扱われる。また、学力の3要素が浸透し、それらを観点別に評価する時代になると、パフォーマンス評価や形成的評価が重視され、テストは「知識・技能」に偏りがちである、生徒の負担が過度になっているなどの理由から、定期考査を廃止し、単元テストや実力テストを実施する学校や自治体も出てきている。このような流れの中で、テストは今後、学校教育においてどのように存在していくであろうか？

本シンポジウムでは、学校教育におけるテストのあり方について、どのように変わってきたか、なぜ変わったのかを、学校に留まらない複数の立場や視点から論じることにより、今後どのように存在し、そのためにはどのように変わっていく必要があるかを考えてみたいと思う。

企画／日本テスト学会 研究委員会

司会／宮本 友弘（東北大学）

趣旨説明／宮本 友弘（東北大学）

話題提供者／渡辺 豊隆（鹿児島県立鶴丸高等学校）、

日山 敦司（株式会社ベネッセコーポレーション）、

水島 淳（文部科学省総合教育政策局）、

坂本 佑太朗（株式会社リクルートマネジメントソリューションズ）

1. 鶴丸高校が目指す「学びの質」とテストの進化20
渡辺 豊隆（鹿児島県立鶴丸高等学校）
2. 教師の指導支援と生徒の学習支援のこれまでとこれから20
日山 敦司（株式会社ベネッセコーポレーション）
3. 「テスト」は目的次第一テストに学んだ経験と鹿児島 CBT から—21
水島 淳（文部科学省）
4. これからの学校教育とテスト—理論と実践のはざまから—21
坂本 佑太朗（株式会社リクルートマネジメントソリューションズ）

大会企画シンポジウム2

「認知診断モデルを実践で活用する」

児童生徒の学びについてきめ細かい分析的診断を行うための一手法として、認知診断モデル(Cognitive Diagnostic Model, CDM)が注目され、応用事例が多く紹介されるようになってきている。しかし、従来のCDMの活用事例は学力アセスメントのような大局的見地からのものが多く、得られた結果の利用法を教育現場のレベルで検討している事例に乏しいのが現状である。本シンポジウムは、実践の場でCDMを活用する方法について可能性を探るために、事例を紹介する。さらに、受検者の解答形式を工夫した場合に対応するモデルの紹介や、実際の学校現場でしばしばみられる「同一児童生徒が複数時点にわたって解答した縦断テストデータ」に対応するCDMの検討を通じ、より学校教育の現場に寄り添ったCDMの活用可能性について考えていく。テスト研究者やテスト事業者だけではなく教壇に立つ教員やその他の実践家にとっても、本シンポジウムを通じて新たな切り口による教育効果の検証方法や実践への活用方法に関する示唆を得ることを期待したい。

※本シンポジウムは、科研費(20H01720・24K00485)の助成を受けています。

企画／光永 悠彦(名古屋大学)

司会／光永 悠彦(名古屋大学)

話題提供者／光永 悠彦(名古屋大学)、植阪 友理(東京大学)、

柴 里実(東京科学大学・日本学術振興会)、福島 健太郎(大阪大学)、

山口 一大(筑波大学)

指定討論／孫 媛(国立情報学研究所)

1. 認知診断モデルの活用について—シンポジウムの趣旨—……………22
光永 悠彦(名古屋大学)
2. 深い理解の実態把握のための認知診断モデルの活用と学校実践への応用……………24
植阪 友理(東京大学)
3. 学校の定期テストにおける認知診断モデル活用の試み……………28
柴 里実(東京科学大学・日本学術振興会)
4. マッチング形式テストのための認知診断モデル……………30
福島 健太郎(大阪大学)
5. 診断分類モデルによる個人の学力成長の予測のための枠組みの提案……………32
山口 一大(筑波大学)

9月24日(水) 10:20 ~ 12:00 3番大教室

一般セッション1

項目反応理論 (1)

座長／前川 眞一 (東京工業大学／大学入試センター)

1. ディリクレ分布を用いた IRT モデルによる確信度テストの分析34
南元 篤史 (東京大学)
岡田 謙介 (東京大学)
2. ノンパラメトリック IRT における非交差の仮定に対する違反評価統計量の開発38
大杉 勇心 (大阪大学)
福島 健太郎 (大阪大学)
山本 倫生 (大阪大学)
3. 無解答を扱うマッチング IRT モデルの拡張42
東口 琳妃 (東京大学)
福島 健太郎 (大阪大学)
岡田 謙介 (東京大学)
4. 不正行為を含む回答データが項目特性推定に与える影響
—将来の受検者能力測定への影響波及の検討—44
甲斐 江里 (株式会社リクルートマネジメントソリューションズ)
尾崎 幸謙 (筑波大学)
5. 古典的テスト理論における真値の不定性とその除去48
前川 眞一 (東京工業大学／大学入試センター)
山下 直人 (関西大学)

9月24日(水) 10:20 ~ 12:00 A200教室

一般セッション2

テストの実践・活用

座長／石井 秀宗（名古屋大学）

1. 質問文の階層を考慮した非認知的個人差測定尺度の妥当性検討の試み
—Sum Scores, Principal Components, and Linear Regressors—52
村上 隆（中京大学）
2. 感情表現の手段としてのお天気アイコンの意味分析
—日本語版 CLIP による埋め込み空間の可視化—56
奥村 太一（滋賀大学）
3. 管理職の行動改善を目指したレコメンド手法の開発
—認知診断モデルを用いた職務遂行スキルの獲得順序を考慮して—60
肖 雨知（株式会社リクルートマネジメントソリューションズ）
坂本 佑太朗（株式会社リクルートマネジメントソリューションズ）
山田 香（株式会社リクルートマネジメントソリューションズ）
佐藤 夏月（株式会社リクルートマネジメントソリューションズ）
佐宗 駿（東京大学・日本学術振興会）
4. 決定木分析による面接対策講座の効果検証と人事評定の予測モデルの構築64
森 一将（千葉大学）
大江 朋子（帝京大学）
渋谷 進（大学改革支援・学位授与機構）
河合 美香（明星大学）
児玉 桜代里（明星大学）
5. 学生はどのようなテスト研究に興味を持つのか？66
石井 秀宗（名古屋大学）
長橋 宙夢（名古屋大学）

9月24日(水) 16:25 ~ 18:05 3番大教室

一般セッション3

テストの自動化

座長／内田 照久 (大学入試センター)

1. 音声授業に基づく LLM 活用自動作問システムの開発と評価70
岡 知樹 (東京大学／株式会社リクルート)
岡田 謙介 (東京大学)
2. 認知診断モデルにおける Q 行列自動推定手法の提案と検証72
張 寓杰 (株式会社ベネッセコーポレーション)
3. 数十万人同時に英語スピーキングテストを実施するための CBT のアーキテクチャ76
Paul Grudnitski (Amp-up.io 社)
村井 拓海 (株式会社ネットラーニング)
佐々木 公博 (株式会社ネットラーニング)
村田 真 (東日本国際大学)
4. 項目ネットワークのコミュニティ検出による Q 行列推定法の提案80
中島 優稀 (東京大学)
宇佐美 慧 (東京大学)
5. テキスト合成音声を利用した英語リスニングテストの試行実験
—英語本来の発話速度とポーズ時間長の検討—84
内田 照久 (大学入試センター)
寺尾 尚大 (大学入試センター)
橋本 貴充 (大学入試センター)

9月24日(水) 16:25 ~ 18:05 A200教室

一般セッション4

大学入試・高大接続

座長／倉元 直樹（東北大学）

1. 米国の大学アドミッションにおける理念的議論と実践的多様性
—総括的評価に関するカレッジ・ボードの報告書に焦点をあてて—……………88
江幡 知佳（大学入試センター）
澤田 彬良（ミネソタ大学）
木村 拓也（九州大学／大学入試センター）
2. 共通テストを使用した国公立大学の特別選抜への出願……………90
橋本 貴充（大学入試センター）
内田 照久（大学入試センター）
3. 項目反応理論を用いたプログラミング能力の推定……………92
宮澤 芳光（大学入試センター）
植野 真臣（電気通信大学）
4. 「3要素・3観点」と「教育接続・選抜接続」の関連に係る一考察
—高大接続改革における公表文書の分析から—……………96
永野 拓矢（名古屋大学）
5. 教育を巡る環境変化と高校現場の多忙化について……………100
倉元 直樹（東北大学）
宮本 友弘（東北大学）

9月25日(木) 15:40 ~ 17:00 3番大教室

一般セッション5

項目反応理論 (2)

座長／堀 一輝 (熊本県立大学)

1. 古典的線形等化法と IRT の比較
—小規模データ条件下での英語試験への適用—104
山野井 真児 (株式会社教育測定研究所)
2. 同時推定を用いた学年間学力差と経年学力変化の分析
—サブサハラ・アフリカ地域の3か国を例として—108
谷口 京子 (広島大学)
光永 悠彦 (名古屋大学)
渡邊 耕二 (宮崎国際大学)
3. 密度比に基づいた Haebara 法の拡張等化手法112
今泉 智子 (東京大学)
作村 建紀 (法政大学)
岡田 謙介 (東京大学)
4. 縮小事前分布を用いた項目パラメタドリフトの検出116
堀 一輝 (熊本県立大学)
村田 維沙 (株式会社ベネッセコーポレーション)

9月25日(木) 15:40 ~ 17:00 A200教室

一般セッション6

学習とテスト

座長／寺尾 尚大 (大学入試センター)

1. 文科系大学生の記述統計・推測統計に関する期末テストの分析……………120
佐々木 淳 (下関市立大学)
2. クラスルームテストにおける段階反応をいかにして学習診断に活用するか？
—小標本と段階反応に対処可能な診断分類モデルの提案と実証—……………124
佐宗 駿 (東京大学・日本学術振興会)
加藤 剛 (東京大学)
岡 元紀 (ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス)
3. 項目プールを活用した診断分類モデルの適用上の留意点
—学級場面での逆説的スコアリングの生起頻度に着目して—……………128
加藤 剛 (東京大学)
佐宗 駿 (東京大学・日本学術振興会)
宇佐美 慧 (東京大学)
4. 世界史・日本史テストの選択枝に共通する基本的特徴の検討
—宣言的知識に関する選択枝への誤り反映ルールに着目して—……………132
寺尾 尚大 (大学入試センター)

日本テスト学会第 23 回大会 プログラム

発行日／2025 年 9 月 21 日

発行者／日本テスト学会第 23 回大会実行委員会

実行委員長 岡田 謙介 (東京大学)

副実行委員長 植阪 友理 (東京大学)

宇佐美 慧 (東京大学)

実行委員 鈴木 雅之 (横浜国立大学)

登藤 直弥 (東京都立大学)

分寺 杏介 (神戸大学)

北條 大樹 (ベネッセ教育総合研究所)

光永 悠彦 (名古屋大学)

山口 一大 (筑波大学)

(50 音順)

日本テスト学会第 23 回大会実行委員会編集事務局

E-mail jart2025headquarters-group@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

大会 Web サイト <https://www.jart2025.jp>